

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第12号
(H30.3)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立東鷹高等学校

「がんばっ東鷹！」をキャッチフレーズに「りっぱな社会人を育てる」

第12号は福岡県立東鷹高等学校です。同校は、基礎学力の定着のために、ICTを活用したアクティブ・ラーニングによる授業改善に積極的に取り組んでいます。また、アクティブ・ラーニングの基盤となる人間関係づくりのために、特別支援教育の研究指定校の経験を生かした、ソーシャルスキル・トレーニングにも取り組んでいます。

1 授業改善の目指す方向性

学校教育目標

「がんばっ東鷹！」をキャッチフレーズに「りっぱな社会人を育てる」

- (1) 社会に受け入れられる人材の育成
- (2) 社会に貢献できる人材の育成

スローガン

「あいさつ 返事 後始末」

「時を守り（時間の秩序）、場を清め（空間の秩序）、礼を正す（人間関係の秩序）」

「ワクワク（生徒も教師も地域もワクワクする楽しい授業、学校行事づくり）」

2 生徒に付けたい資質・能力（具体的教育目標）

- (1) 毎日楽しく学校に通える心身共に健康な生徒の育成
- (2) いつでも、どこでも、誰にでも気持ちよい行動（挨拶など）ができる生徒の育成
- (3) 「率先垂範」を旨とし、清掃など自ら進んで行動できる生徒の育成
- (4) 授業を大切にし、前向きに授業に参加できる生徒の育成
- (5) 自分の進路について明確な目標を持ち、その実現に向けて努力できる生徒の育成
- (6) 人間関係や教育環境の中で、様々なことに気づく生徒の育成
- (7) 自他を大切にできる人権感覚豊かな生徒の育成
- (8) 地域を愛し、積極的に関わろうとする生徒の育成

3 授業改善の推進体制と環境整備

- (1) ICT活用による板書に費やす時間の短縮

板書に費やす時間の短縮によって、教師と生徒、生徒同士が触れ合う時間が確保できるようになり、生徒同士の対話や協働、アイデアの共有が活発になる。

- (2) 学科の枠を超えて、自分の意思で学習内容を選択

（普通科総合コース、総合生活科）

ハンダ、器楽、数学探究、実用陶芸、ファッション造形、異文化理解など多様な科目を設定

- (3) 課題研究

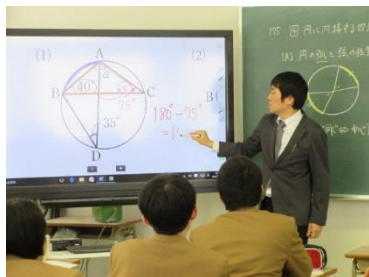
総合生活科3年次にグループで課題研究に取り組む。学期ごとに活動内容、成果、反省、今後の課題をレポートとして提出させ、ルーブリックで評価している。1年間の活動をまとめて研究冊子を作成している。



4 授業等での具体的な取組

(1) 各教科の授業

- ア ICTを活用した分かりやすいワクワクする授業
- イ 生徒の思考を促す発問の工夫とペアワーク・グループワークによる協働
- ウ 「本時の目標」、「まとめ」等の磁石プレートを活用した分かりやすい板書
- エ 習熟度別指導等のきめ細かな教科指導（国語、数学、英語、家庭）



1年生の数学Aの授業です。既設の黒板と電子黒板を併用し、それぞれの良さを組み合わせて、生徒の集中力を高めながら、分かりやすい授業が行われています。



3年生の英語の授業です。電子黒板を使って、テキストの内容に関係するビデオ教材を視聴し生徒の関心・意欲を高め、ペアリーディングや暗唱の練習など生徒の活動を中心とした授業が行われています。

(2) ソーシャルスキル・トレーニング

平成22年度から3年間、文部科学省の指定を受け「高等学校における特別な教育的ニーズに対応するための教育課程及び指導方法に関する研究開発」に取り組んだ。この経験を生かして、総合的な学習の時間等を活用し、計画的にソーシャルスキル・トレーニングの活動に取り組んでいる。特に、第1学年でイントロダクションレッスンを実施することで、生徒自身が将来の自立に向けて、自己の在り方生き方を考え、社会生活で必要なスキルを身に付けることができる。

アクティブ・ラーニングを進めるための基盤となる人間関係づくりを、ソーシャルスキル・トレーニングや、人の心を動かす挨拶、言葉遣いの指導を通して実践することで、授業の中で生徒が安心して活動できる学びの場が創られています。生徒は、授業中の活動場面で他者から認められることにより自己肯定感を高め、積極的に学習に取り組む姿へ変化しています。

5 アクティブ・ラーニング導入の成果

(1) 生徒の変容

- 学習活動のいろいろな場面で評価されることや、今まで気づかなかった自分の性格や考え方、他者から見た自分の長所を知ることによって、自尊感情が高められている。
- ペアワーク、グループワークを取り入れることにより、授業にメリハリが生まれ、生徒の思考が活発になっている。居眠りをする生徒が減り、授業に集中する生徒が増えた。

(2) 教師の変容

- 生徒をほめる場面が増えた。教員と生徒が毎時間、本時の目標を共有するようになった。
- 自発的に研修に参加する教員が増え、授業改善の意識が高まった。

6 今後の方向性

「主体的・対話的で深い学び」による確かな学力の育成を進めるため、アクティブな手法の中により深い授業内容の理解を求め、学校全体で『教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり』を推進していく。